

「只見愛」を育む教育課程の創造

－「只見学」を中核とした持続発展教育（ESD）を通して－

只見町立朝日小学校（代表）校長 鈴木 正和 教諭 橋本 淳

1 研究の趣旨

本校がある只見町は、新潟県との県境に位置し、日本有数の豪雪地帯である。また、豊かで広大な自然環境は、自然と人間が共生してきたことが評価され、「ユネスコエコパーク（ユネスコが認めた持続可能な社会を実現するためのモデル地域）」に認定された。

一方、少子高齢化に伴う「自治体存続の危機」や「児童生徒数、学級数の減少」「固定化された人間関係に伴う学ぶ意欲の喪失」など様々な深刻な課題が生じており、次世代を担う児童生徒の育成に町をあげて取り組んでいる。

これらの只見町のよさと課題を受け、本校では「ユネスコスクール」に加盟し、持続可能な発展のための教育（ESD）の実践推進校として取り組んでいる。本校における持続発展教育（ESD）とは、「将来にわたって、持続可能な只見町を構築する担い手を育む教育」である。具体的には、総合的な学習の時間における「只見学」を中核として、各領域及び各教科における指導内容と関連させながら、繰り返し指導することにより「只見愛」（「自分に自信をもち、家族や地域に誇りをもち、夢に向かって学び続ける」態度）を育てていくことをねらいとした。そこで、以下のような仮説を設定し、本主題に迫った。

めざす児童像を明確に設定し、地域のよさを体験する学習活動を中核とし、繰り返し指導ができるように、教育課程を編成・実施・評価・改善すれば、将来にわたって持続可能な地域を構築できる担い手を育成することができるであろう。

2 研究の概要

(1) 「只見学」を中核とした計画の作成と実施

- ① 各教科・各領域において繰り返し指導が可能なESDカレンダー
- ② 地域に応じた指導計画
 - 防災教育
 - 放射線教育
 - 郷土愛を育む道德教育

(2) 教育課程の評価改善の工夫

- ① こまめな評価システムの確立
 - 週指導計画案の工夫 個の見取り
 - 月毎の評価の工夫
 - 学校運営協議会



3 成果と今後の課題

- (1) 生活科での学習から、総合的な学習の時間における只見の「人と文化」「自然」「食と農」「歴史・未来」と発展していく系統性は、発達段階に適合し、また学習指導要領の内容と整合するなど、持続可能な地域を構築できる担い手の育成に効果的であった。
- (2) 学年のテーマを設定し、只見学を中核に据え、各教科領域において関連指導を行うことで、繰り返し指導が可能になり「只見愛」の育成に効果的であった。
- (3) 領域・教科間のつながりは意識できたが、縦のつながりを意識した計画を作成していかなければいけない。
- (4) 一つ一つの体験にも連続性を持たせ、年間を通して関連を持たせながら目指す児童像に迫っていくようにする。